
三菱レイヨン、大竹事業所の炭素繊維生産を増強

Edited By LogisticsToday On 2016/06/28

三菱レイヨンは大竹事業所（広島県大竹市）で追加設備投資を実施し、ラージトウ炭素繊維の年間生産能力を現在の2700トンから3900トンに増強する。2017年9月までに稼働を開始する。

これにより、年内に移働する米国サクラメントのレギュラートウ炭素繊維工場の能力増強と合わせ、17年には生産能力が1万100トンから1万3300トンへと3割増加する。

風力発電機のブレード（翼）向けにラージトウの需要が伸長しているほか、自動車の軽量化材料としても高機能ラージトウを用いた中間材料の引き合いが増えていることから、能力増強を決めた。

能力増強後の大竹事業所の炭素繊維工場は、単独製造ラインとして世界最大規模となる。

Article printed from Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト : <http://www.logi-today.com>

URL to article : <http://www.logi-today.com/241748>

Copyright © 2020 Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト. All rights reserved.